

令和7年度 江戸川区立第二葛西学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<p>◎自らすすんで取り組む（重点目標） ○考える子 ○思いやりのある子 ○じょうぶな子 ○やりぬく子</p>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p> <p>【目指す学校像】一人一人の子どもの笑顔が 光り輝く学校 ○【子ども】全ての子どもが、安心できる居場所のある学校「通ってよかった！」 ○【保護者・地域】地域に開かれ、地域と共に歩む学校「通わせてよかった！」 ○【教職員】愛情深く、同僚性を高め合える教職員の学校「勤めてよかった！」</p> <p>【目指す児童像】 ◎自ら考え、主体的に判断し、行動する児童（今年度重点） ○自分も友達も大切にする、思いやりのある児童 ○困難に負けず、最後まで粘り強く取り組む児童 ○心身ともに、健康で逞しく生きる力を育む児童</p> <p>【目指す教師像】 ○子どもに寄り添い、心から愛情深く接する教師 ○プロ意識をもち、「授業改善」に向けて、常に学び続ける教師 ○「チーム@二葛西」の一員として、互いに同僚性を高め合える教師</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な情報発信に努めることができた。</li> <li>素直で思いやりのある子どもたちが多く育った。</li> <li>安心して安全な学校づくりに向けた取組を進めることができた。</li> <li>教職員が連携して、教育活動・学校運営を展開することができた。</li> </ul>	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区が課題として掲げている学力向上の取組に、組織的に取り組んでいく。</li> <li>学校と家庭との連携・協働を、より一層推進していく。</li> <li>不登校や配慮が必要な児童等への対応を、校内体制で取り組んでいく。</li> <li>区独自の「読書科」の充実に向けて、積極的に推進していく。</li> </ul>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○自らすすんで学ぶ態度・意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別学習、教科担任制、交換授業などの推進</li> <li>一人一台端末の効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やる気をもって授業に取り組んでいる児童80%以上</li> <li>授業の工夫がされているという教員80%以上</li> </ul>	80%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担任制、交換授業等は、児童の学習意欲の向上のほか、教員が多くの児童を見守る体制作りにもつながっている。</li> <li>児童がやる気をもって学習に取り組んでいる。そのことが学力の向上につながり、自信になるよう指導を工夫したい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業が楽しいという子どもが多くなるよう、教職員が工夫をしていると感じている。</li> <li>タブレットによる連絡やりとりを通して、子どもたちの様子が学校に伝わっていることは良いことである。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>やる気をもって授業に取り組んでいる児童は77.8%であった。</li> <li>授業の工夫がされているという教員は100%であった。</li> <li>児童の意欲を向上させるために、教員の授業力向上と共に、家庭と連携して対応していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが、安心して学校に通えるよう、見守りや声掛けを行っている。今後も家庭との連携を働きかけていきたい。</li> <li>授業以外の時間でも、タブレットで学習できるということは、有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の授業力向上に向けた校内研究の実施</li> <li>家庭での学習習慣の確立</li> </ul>
	○基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上PTの徹底</li> <li>区、都、国の学力調査の活用</li> <li>放課後学習教室（EDOスク）の実施</li> <li>「自分で学びを計画、選択できる授業」を1単位時間以上設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業が分かりやすいと回答する児童80%以上</li> <li>授業スタンダードを意識した授業構成ができる教員90%以上</li> </ul>	75%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査の結果を指導に生かし、全教職員で一致した認識をもち、児童の学力の底上げを行いたい。</li> <li>授業が分かりやすいと感じている児童は多いが、授業がよく分からないと感じている児童との落差が激しいと感じる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>区や都や国の様々な施策がある。適切に活用して、子どもたちの学力を高めてほしい。</li> <li>自分で学びを計画・選択できる力は、今後の社会における課題を解決する力となっていく。引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業が分かりやすいと回答する児童は89.9%であった。</li> <li>授業スタンダードを意識した授業構成ができる教員は97%であった。</li> <li>学年が上がるごとに学力差が大きくなる。個別最適な指導を実施して、基礎・基本の定着をめざしていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの児童に合った授業をするのは大変だと思うが、基礎・基本の学力の定着は、とても重要な課題であるので、引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適な指導の検討・実施</li> <li>タブレットの活用</li> </ul>
	○読書科のさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究的な学習（調べる学習）の推進</li> <li>朝読書及び毎週30分間の読書活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる学習コンクールに応募する児童80%以上</li> </ul>	84%	95%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が主体的に調べられるよう、夏休みの補習でも支援を行ったところ、学校図書館の利用の割合も増加した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みに2年生以上の全員が「調べる学習コンクール」の課題に取り組んだと聞いた。自分でテーマを決め探求するのは難しかったと思う。評価したい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる学習コンクールに応募する児童は80.5%であった。区長賞を1名、金賞を3名、銀賞を4名が受賞した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の興味・関心のあることを、深く知ろうとし、調べることができる子どもが多いことを、評価したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる学習の一層の推進</li> </ul>
	○言葉の力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回課題の暗唱活動</li> <li>俳句、詩などの名文に触れ、語彙力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩の暗唱コンクール（全国SLA）児童30名以上応募</li> </ul>	80%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>暗唱のために、分からない語句を調べる子もいる。</li> <li>初めて触れる言葉にも親しみ、日常の中で活用できるようになってほしい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページで暗唱に取り組む様子を見た。様々な言葉に触れて、楽しんで自己の世界を深めてほしい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>暗唱や音読などに楽しく取り組んでいる児童は85%であった。</li> <li>多くの言葉に触れさせ、語彙力や表現力の向上を目指す。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばのもつ力は計り知れない。多くのことばに触れ、情緒豊かな大人になってほしいと望んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動の土台となる語彙力育成の推奨</li> </ul>
体力向上	○自らすすんで体力を高めようとする態度・意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週30分間の全校運動遊び</li> <li>元気アップタイムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力を高めるために、体を動かしている児童80%以上</li> </ul>	77%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気アップタイムは児童が主体的に活動を企画する場となり、意欲的であるが、熱中症の危険から実施できない日もあった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏は暑さの影響で運動できる機会が限られる。</li> <li>なわとびに熱心に取り組んでいたことを評価したい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力を高めるために、体を動かしている児童は84.1%であった。</li> <li>今後も、児童が主体的に運動できる機会を設定していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人数が多いため、校庭を一度に使っての運動は大変だろうと思う。工夫をして運動していることは、よいことと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が主体的に運動できる機会の設定</li> </ul>
	○自らすすんで健康・安全な生活を送る力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>フッ化物洗口の実施</li> <li>歯磨き指導の充実</li> <li>多彩な給食の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健指導が適切だという教員85%以上</li> </ul>	81%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>フッ化物洗口を実施するための準備や時間の捻出が大変だった。</li> <li>給食ではいつも季節や栄養を意識した献立が出ている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸川区の課題としての虫歯対策に、学校でも協力していただいていると感じる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健指導が適切だという教員は100%であった。</li> <li>歯みがき・フッ化物洗口を実施し、児童の健康への意識の向上を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場面で、養護教諭や外部講師による健康指導が行われていると知った。子どもたちの健康への意識向上のため、今後も継続してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯みがき、フッ化物洗口の実施</li> <li>保健指導の充実</li> </ul>
	○自分の身体や健康への関心の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力・運動能力調査の実施</li> <li>「チャレンジカード」の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康や安全に気を付けて生活している児童80%以上</li> </ul>	74%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストでは、教員の手本と説明が奏功し、児童のやる気を引き出した。結果に結びつこう、工夫を重ねていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人数が多い中、学校の取組には感謝している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康や安全に気を付けて生活している児童は90.4%であった。</li> <li>体力調査の結果を活用する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの結果を生かし、子どもたちの体力や運動能力を伸ばしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力調査の結果の活用による、体力向上計画の立案・実施</li> </ul>

共生社会の実現に向けた教育	○交流・協同学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおそら学級の指導の充実</li> <li>・通常級とおおそら学級の多様な交流・協同学習の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な交流、共同学習が進められているという教員80%以上</li> </ul>	75%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおそら学級との交流を楽しみにしている児童が多い。同じ地域社会に生きる仲間として理解を進め、共に生きる術をさらに身に付けてほしい。</li> <li>・特別支援学校との復籍交流をもっと盛んに実施したい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内に特別支援学級があるということが、環境としても社会福祉としても良いと感じる。今後も効果的な交流・共同学習を行ってほしい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な交流、共同学習が進められているという教員は95%であった。</li> <li>・時間割の調整や、児童の特性や得意分野の共有を含め、全校体制で推進していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を継続することで、互いへの理解が進むことが多い。地域の中で共に生きる仲間として、相互理解を深めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校体制での交流及び共同学習の推進</li> </ul>
	○個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内委員会を中心とした支援の充実</li> <li>・巡回指導をはじめとする人材・資源などの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮を要する児童への支援が適切だという教員80%以上</li> </ul>	73%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内委員会での検討事項や決定事項が、効率的に教職員全体に伝わるようにすることが課題である。</li> <li>・特別支援教室を利用できる児童を増やすため、指導が終了できる児童を増やしていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題や家庭環境のある子どもたちがいる。保護者や地域と共に、学校が支えてくれていることに心強さを感じている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮を要する児童への支援が適切だという教員は100%であった。</li> <li>・人数が多いため、情報共有の時間は限られるが、効率的に実施し、児童への支援を確実に行うことが重要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が多いので、多様な配慮事項が必要だと推測される。保護者・地域と。関係する機関との連携を、今後も期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童についての情報共有の効率化</li> <li>・児童への支援方針の明確化</li> </ul>
豊かな心の育成	○自他を尊重する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を育てる人権教育</li> <li>・自分も相手も大切にすることの多様性を認め合う教育</li> <li>・二葛西小の約束の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が楽しいと回答する児童90%以上</li> </ul>	84%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権を尊重した教育活動に終わりはなく。継続していく。</li> <li>・二葛西小の約束を改訂している。児童や保護者にとって、さらに理解しやすくしていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他を尊重し、認め合う教育には時間がかかる。引き続き、学校全体で取り組んでほしい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が楽しいと回答する児童は90.1%であった。</li> <li>・道徳の時間や日常の教育活動の中で、自他を認め合い、尊重する指導を実施していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもを取り巻く社会情勢や環境は、日々大きく変化している。自他を認め合い、多様性を尊重し合える教育活動に一層取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教育活動の中での、人権教育の推進</li> </ul>
	○健全育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・L-Gate毎日の記録の活用</li> <li>・校内委員会を中心とした支援の充実</li> <li>・いじめの未然防止、早期発見、早期活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考え行動している児童80%以上</li> </ul>	76%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・L-Gateでのやりとりを通して児童の健康や心の状況が伝わるが、書かれていないことにも注意して汲み取っていききたい。</li> <li>・いじめに発展する前の、トラブルの段階から関わり、未然防止を徹底していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットで自分の気持ちを伝えられるのはよい。</li> <li>・毎日全ての子どもの状況を把握するのは大変だと思うが、とても重要なことなので、これからも重点的に取り組んでほしい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考えて行動している児童は89.3%であった。</li> <li>・L-Gateでのやりとりを通して、児童の様子を確実に聞き取り、共有できている。生活アンケートを活用していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長と共に、自分の気持ちをなかなか伝えなくなる子どもが多い。学校と家庭、地域社会で連携し、子どもの心に寄り添っていききたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・L-Gate・生活アンケートの活用</li> </ul>
	○基本的な生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童がかかわる挨拶当番の活動</li> <li>・委員会活動、係、当番活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは挨拶をしていると肯定的に回答する保護者80%以上</li> </ul>	71%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶活動を実施しているが、全児童へは浸透していないので、今後も継続していく。</li> <li>・委員会等の活動には、児童の自主性を重視することに主眼を置いている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする子どもは限られている。</li> <li>・自分の役割を果たす機会を、全ての子どもがもてるようにしてほしい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは挨拶をしていると肯定的に回答する保護者は78.5%であった。</li> <li>・挨拶に返答する児童は多いが、自ら挨拶できるよう、主体的な活動として位置付ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から挨拶ができる子どもは少ないと感じる。</li> <li>・家庭や学校の中で、自主的に役割を果たせる子どもたちを育成することは、重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の主体的な挨拶活動の位置付け</li> </ul>
地域社会に開かれた教育	○教育活動の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPの毎日の更新</li> <li>・全校保護者会、学校説明会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様子が分かりやすく伝えられている保護者80%以上</li> </ul>	80%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPで、毎日学校の出来事を伝えられている。</li> <li>・保護者会等では、保護者の納得が得られるよう説明したい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや学校だよりで学校の様子を知ることができ、安心している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様子が分かりやすく伝えられていると回答する保護者は89.8%であった。</li> <li>・必要な情報発信を実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育方針を共有することは、保護者や地域社会との連携に必要不可欠である。今後も発信してもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、tetoru、学校だよりによる確実な情報発信の実施</li> </ul>
	○安心・安全な学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな災害を想定した訓練の実施</li> <li>・食物アレルギーへの対応を含めた事故防止の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気を付けて生活しているという児童80%以上</li> <li>・防災、防犯等の取組が適切に行われているという保護者90%以上</li> </ul>	78%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分の身の安全を守るために、様々な事態を想定し、自ら考えて行動できるようになることをめざし、今後も訓練を工夫していききたい。</li> <li>・防災や防犯設備の点検等も、適切に行われている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の避難訓練は大変重要であり、自らの生命を自ら守る力を付けることを、今後も期待したい。</li> <li>・地域との連携を深めていくことが重要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気を付けて生活しているという児童は96.1%であった。</li> <li>・防災、防犯等の取組が適切に行われているという保護者は92.6%であった。</li> <li>・安全への対策を確実に実行する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な災害や、事件・事故の可能性はある。全てから身を守ることは容易ではないが、「自らの身を守る」という意識を育成し、知識を得て経験を重ねていくことで、身を守れる確率を上げられる。継続してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実効性の高い避難訓練の検討・実施</li> </ul>
	○家庭・地域とともに歩む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼、保、中との多様な交流の充実</li> <li>・愛校心を醸成できる教育活動の推進</li> <li>・PTA、おやじの会によるイベントの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や保護者等との連携が進められているという教員80%以上</li> </ul>	79%	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への愛着や、愛校心を育成するための手立てを講じるためには、教員自身が地域をよく知らなければならぬと感じる。</li> <li>・地域やPTA、おやじの会には大変お世話になっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛西地区で生まれ育つ子どもたちのために、地域社会としてできることをしたいと考えている。</li> <li>・PTA、おやじの会の取組や協力が素晴らしい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や保護者等との連携が進められているという教員は100%であった。</li> <li>・保護者、地域の方々と連携し、児童の安全を守り、愛校心や地域愛を情勢していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園や保育園の園児たちが、学校に親しむ機会があることで、連携が円滑になると感じる。</li> <li>・学校で行われる様々な行事を通して、地域住民も学校への親しみが増している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材のゲストティーチャーの活用</li> </ul>
特色ある教育	○教員の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員一人一人のニーズに応じた研究・研修の推進</li> <li>・若手教員の組織的な育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資質・能力の向上に努めているという教員90%以上</li> </ul>	84%	80%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任教諭を中心に、若手育成を実施している。</li> <li>・研究、研修については課題も多いが、教職員が主体的に行っている。成果や課題を共有し、さらに向上していきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が多く若手も多い中、育成は重要な課題である。今後とも、教職員が誇りをもって教育活動を行えるよう、努めてほしい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資質・能力の向上に努めているという教員は100%であった。</li> <li>・校内研究及び教員の指導力向上のための研修を確実に実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手の教員が多いので、今後も研究や研修を充実させてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究及び教員の指導力向上のための研修の実施</li> </ul>
	○働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の効率化、行事の精選、組織改革の推進</li> <li>・ペーパーレス化の一層の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員の月残業時間45時間以下</li> <li>・時間外勤務の縮減に努めているという教員90%以上</li> </ul>	86%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や行事の精選をし、さらに組織改革を推し進めたい。</li> <li>・業務の負担が偏っていないかを確認し、時間外勤務を縮減していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の負担軽減については、これからも積極的に推進してほしい。</li> <li>・行事等で、地域や家庭の協力できるところはしていきたいと考える。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員の月残業時間の平均は45時間以下である。</li> <li>・時間外勤務の縮減に努めているという教員は95%であった。</li> <li>・業務負担を見直し、一部の教員に負担が偏らないようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や業務の効率化を図り、ペーパーレスに取り組んでいることで、教職員の余裕につながり、子どもたちをよりよく見る時間を増やせるようにしてほしいと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分担の見直し</li> <li>・校務分掌の再編成</li> </ul>